

第29回日本緩和医療学会学術大会
第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会

ランチオンセミナー 9

緩和医療と口腔ケアの接点

～がん患者さんのQOL向上に
口腔ケアがどう貢献できるか～

2024年

日時

6月14日(金) 12:20～13:10

会場

第14会場 神戸国際会議場
401+402

座長

永山 淳 先生

国家公務員共済組合連合会浜の町病院
緩和医療内科 部長

演者

上野 尚雄 先生

国立がん研究センター中央病院 歯科医長

共催

第29回日本緩和医療学会学術大会
第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会 / 久光製薬株式会社

第29回日本緩和医療学会学術大会
第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会
ランチオンセミナー 9

緩和医療と口腔ケアの接点

～がん患者さんのQOL向上に 口腔ケアがどう貢献できるか～

抄録

緩和療養中のがん患者さんには、さまざまな口腔トラブルが生じやすく、また重症化しやすいです。このような口腔のトラブルは生活の質を下げる大きな一因となるため、口腔の不快症状を取り除き、「口からおいしく食べる」、「会話で良好なコミュニケーションをとる」ことを支え、療養生活の質をできるだけ高く維持し、最後までその人らしい人生を送るための支援が重要視されています。

口腔ケアは、このような時期においても患者の生活を快適にするために不可欠なケアであると言えますが、多くの身体的な苦痛症状を抱えていることが多いがん患者さんには、時に我々にとって当たり前の「毎日の歯ブラシやうがい」を十全に行うことが困難となり、医療者による代償が必要となることがあります。しかし医療者が口腔ケアの介入にかけられる時間や内容には制限がありますし、また口腔ケアが患者の負担になり、介入によって逆に身体症状を悪化させるような事態は避けなければなりません。最小限の苦痛で有効な口腔ケアができることを目標に、現実的な対応を考慮し患者さんや家族へ関わってゆくことが大切と考えます。

本講演では、緩和療養中のがん患者さんのQOL向上に資する口腔ケアのために、そのような時期のがん患者さんに多くみられる口腔のトラブルである「口腔乾燥症」や「口腔カンジダ症」などを中心にとりあげて、口腔ケアや歯科との連携の意義・具体的な対応を整理して皆様と共有したいと思います。

上野 尚雄 先生 | 国立がん研究センター中央病院 歯科医長

【略歴】

平成 9年(1997年) 北海道大学歯学部 卒業、北海道大学
第一口腔外科 入局

平成15年(2003年) 北海道大学 大学院歯学研究科 博士課程 卒業
平成16年(2004年) 静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 入局

平成19年(2007年) 静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科
副医長

平成20年(2008年) 国立がんセンター中央病院 歯科 医員
平成24年(2012年) 現職